



内閣府特命担当大臣

林 幹雄
はやし もと お

このたび、沖縄を担当する内閣府特命担当大臣に就任いたしました。沖縄の魅力を国内外に発信して振興策を進めることを基本に、県民の皆様が負っている大きな基地負担を軽減すべく、尽力してまいります。

大臣就任以来、一日も早く沖縄県を訪れたいとの希望を持っており、就任早々の8月10日から11日にかけて、地元の方々の意見交換や視察のため、沖縄を訪問いたしました。

今回の訪問では、仲井眞知事を始め各界の多くの関係者とお会いし、就任の御挨拶とともに、沖縄をめぐる諸問題について忌憚のない意見交換を行うことができました。また、国立沖縄戦没者墓苑の参拝等を通じて、県民の皆様のつらく、悲しい経験に思いを致し、二度と悲惨な戦争を起こしてはならないとの決意を新たにしました。これまでの運輸政務次官、国土交通副大臣等の経験を活かし、「一意専心」をモットーとして、沖縄振興のために与えられた職務に全力投球いたします。

普天間飛行場の視察では、市街地に隣接して広がっている姿を実際に見て、一日も早い移設・返還の必要性を実感しました。地元の意向をよく伺い、沖縄を担当する大臣として、沖縄との橋渡し役を務めていきたいと考

Greeting

就任のご挨拶

えております。

また、沖縄科学技術大学院大学の建設予定地を視察しました。大学院大学の建設予定地は、沖縄らしい自然環境に恵まれた土地で、世界最高水準の研究教育を行う環境としてふさわしく、また、研究棟などの建設が着実に進んでいると実感しました。

今後、沖縄県、周辺市町村を始め関係者の皆様の御協力を得ながら、大学院大学構想を着実に前進させていきたいと思えます。

さらに、糸満市では、今年から始まった「アジア青年の家」の活動を行っている若い皆さんにお会いし、「頑張ってください」の意味を込めて「Can do!!」と激励してまいりました。アジアと日本の参加者が国境を越えて三週間にわたって共に生活し、切磋琢磨することの素晴らしさを感じ取ることができ、こうし

た若者が、次の時代を切り拓き、アジアの架け橋となってくれることを期待しています。

今回の訪問を通じて、県民の皆様のおいや地域の実情に直接触れることができ、まさに「百聞不如一見」（ひやくぶんはいっけんにしかず）ということを実感しました。今回の経験も活かし、今後の沖縄振興に全力で取り組んでまいります。

